

「ミナミハンドウイルカで見られる皮膚病変について」

小笠原でイルカを観察していると、ときどき皮膚に異常のある個体に出会うことがあります。イルカたちも私たちと同じように、ウイルスや細菌、真菌などの微生物によって、体に影響を受けることが知られています。水族館できちんと体調管理されている飼育個体であっても、感染症などによって死んでしまう例があるようです。

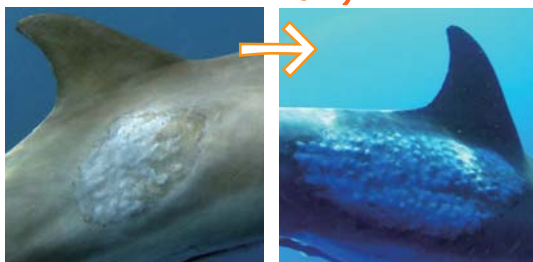
ここ最近、ロボミコーシス (Lobomycosis、ラカジオーシスとも) と呼ばれる真菌症について、耳にすることが多くなりました。もともとはヒトの皮膚病として報告されていたものですが、近年は特にハンドウイルカやミナミハンドウイルカなどでも皮膚病変の原因として報告されています。

下には #36 と #48 で確認した皮膚病変の写真を載せています。いずれも時間の経過とともに、その病変部が広がっていることが確認できます。これらの2個体は、2014年度のイルカ調査でもその姿を確認しています。#55という個体の背ビレにも、#48と同じようなブツブツが背ビレに広がっていましたが (イルカ通信 No.23 参照)、2011年を最後に、その後の目撃例がありません。

今回ご紹介した病変の原因がロボミコーシスによるものなのかは、皮膚のサンプルを採集してみないと、分かりません。イルカ・クジラの感染症については、まだまだ解明されていないことが多いようですので、こういった個体の様子もきちんとモニタリングしていく必要があると考えています。なにか変だな? というイルカを見かけたら、是非 OWA までご連絡ください。

写真：ミナミハンドウイルカで確認した皮膚病変について (#36と#48のケース)

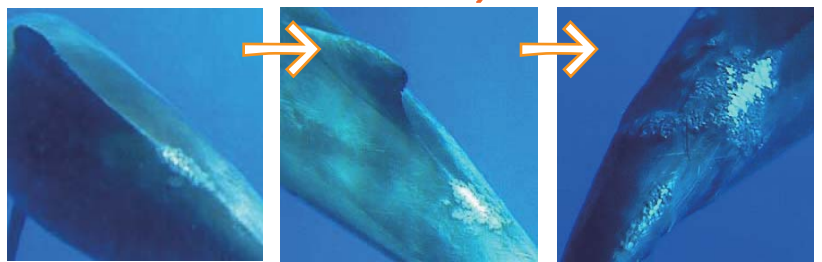
#36 (♂)



2004年4月

2005年6月

#48 (♂)



2008年6月

2011年9月

2014年7月

<参考文献> 田島木綿子. 野生動物の病理学とは? -イルカ・クジラの場合. 『続イルカ・クジラ学』(村山司, 鈴木美和, 吉岡基編) 東海大学出版部. (下参照)
第3回神戸アニマルケア国際会議 (ICAC KOBE 2014 記録集より) 佐野文子. 『真菌: 「人と動物に共通した皮膚病を起こす真菌症」』 <http://knots.or.jp/corporation/wp-content/images/2014/09/bd3dc8fc323cca7ed606e1a8b7d8bdf7.pdf>

OWA 新着図書紹介: 「続イルカ・クジラ学」



村山 司, 鈴木 美和, 吉岡 基 (編)
A5 変判・198 ページ
本体 2,800 円 + 税
東海大学出版部

「イルカ・クジラ学」の続編が登場。今月お知らせしたイルカの病理のことについても詳しく書かれています。OWA 図書コーナーに新しく加わりましたので、興味のある方は是非お越しください。

いるか展～見て！泳いで！もっとわかる～

小笠原ビジターセンターにて開催中

一年を通して、ドルフィンスイム&ウォッチングができる小笠原。この恵まれたフィールドで、ぜひ野生のイルカに会いに行きましょう～! というコンセプトのもと、イルカのあれこれを、わかりやすく展示しています。



■開館日 入港中 8:30 ~ 17:00 ■問い合わせ: 04998-2-3001